

事務事業名	宿泊・観光消費喚起支援事業		所属部	産業観光部	所属課	観光振興課
総合計画体系	政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	観光振興グループ	課長名 高橋 司
	施策名	〈36〉観光の振興		担当者名	安部 千愛	電話番号 0854-40-1054 (内線) 2433
	目的・対象	A)市外の人 B)市民	意図	A)市内で観光を楽しんでもらい、消費してもらう。 B)観光情報を発信する。		
	基本事業	〈104〉観光情報の発信		予算科目	0:1355:0 0:5100:8	大事業名 新型コロナウイルス感染症対策事業 中事業名 宿泊・観光消費喚起支援事業
目的・対象	市内外の人	意図	観光情報を得る。			

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市内外の人、観光客	雲南市を訪れ宿泊及び観光消費をしてもらう。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 □ 単年度のみ □ 単年度繰返 (年度 ~) ■ 期間限定複数年度 (R3 年度 ~ R4 年度)	コロナウイルスの影響で低迷している観光産業を支援するため、雲南市内の宿泊施設に宿泊した者に対して、市内の宿泊施設及び観光施設、ガソリンスタンド等で使用できる「プレミアム付きうんなん観光券(以下:観光券)」を販売した。 【宿泊の対象期間】 令和4年11月1日~令和5年2月28日(12月補正にあわせ対象期間延長) 【観光券利用期間】 令和4年11月1日~令和5年2月28日 【財源】新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R4年度実績(R4年度に行った主な活動) 市内対象施設への宿泊者に対し、観光券4,000円/枚(500円8枚綴)を2,000円で販売。1人あたり2枚まで購入可。 観光券は市内の宿泊施設や観光施設、給油所等で利用可能。 【販売数】3,885枚(8枚綴×3,885=31,080枚) 【宿泊利用、観光施設等換金数】26,216枚(500円/枚)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 観光券4,000円分を2,000円の負担で購入できるとしたプレミアムを付けることで、市内宿泊率の向上と観光消費喚起を促した。販売状況が好評だったことから、内容を見直したうえで宿泊閑散期対策として観光券の増刷及び販売期間の延長を行った。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 観光入込客数	千人		934	1,000	
イ 観光消費額(R4は推計値)	百万円		1,982	2,043	
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)	② コストの推移	単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
・委託料 8,926千円	財源内訳	国庫支出金	千円		14,494	8,926
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
		一般財源	千円			
	事業費計	千円	0	14,494	8,926	0

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	消費者ニーズをとらえた事業であり、販売開始に伴い多くの問い合わせがあった。観光券は宿泊のほか道の駅や温浴施設などで利用されており、宿泊率の向上及び観光消費額の拡大につながった。中でも、燃料価格高騰の影響でガソリンスタンドでの利用が目立った。
② 事業実施するうえでの課題	宿泊利用が一定の施設に偏った傾向にあった。また、観光施設よりもガソリンスタンドでの利用が多かった。 販売当初、対象施設で宿泊しなくても購入可能としたため、購入した施設以外の施設で宿泊利用するケース、宿泊せずに購入するケース等が多々見受けられた。
③ 課題解決に向けた改革改善等	宿泊事業者や委託事業者の意見も聞きながら検討したうえで、追加販売以降は宿泊者のみに限定し、その宿泊分観光券は購入施設のみで利用できるようにした。今後も国や県の対応等を注視しながら、観光消費の促進に取り組む。併せて、宿泊事業の機運醸成に向けた支援なども行う。